

一緒に外国人住民の 母子保健・子育て支援を 考えてみませんか？

モデル事業
募集



公益財団法人かながわ国際交流財団（KIF）は、外国人住民を対象にする母子保健・子育て支援事業に協力します。つきましては、つぎの要領で一緒に企画・実施して下さる機関を募集します。

実施結果は母子保健・子育て支援におけるモデル事例としてウェブサイト等で公開したり、2020年度作成予定の事例集で紹介したりいたします。ご応募お待ちしております。

対象

神奈川県内の次の機関を対象とします。

- 1) 市町村の母子保健担当課
- 2) 医療機関（産婦人科・小児科）
- 3) 子育て支援センター（拠点）等

募集数

2～3事例※

※応募多数の場合は、内容と実施地域等のバランスを考慮しながら選考し、5月上旬頃に決定します。

協働機関にお願いすること

- 1) 外国人住民の母子保健・子育て支援における地域課題の解決に向けた取組みの計画・実施
- 2) 会場の提供 等

費用

講師や通訳の謝金・交通費および資料代等は調整の上で原則としてKIFが負担します。

応募方法

応募用紙をFAXまたはEmailでお送りください。
Email: tabunka@kifjp.org FAX: 045-620-0025
※モデル事業の規模や内容についてのご相談は、随時受け付けています。

受付期間

2020年3月25日(水)～
4月24日(金) 17:00まで

過去事業例(2018年度・2019年度)

- 綾瀬市健康づくり課「**ムスリム女性栄養・健康ワークショップ**」（職員研修、内容検討、広報協力、WS実施）
- 大和市立病院産婦人科「**ベトナム人妊婦教室**」（職員研修、教室内容検討、連携先検討、妊婦教室実施）
- 横浜市神奈川区地域子育て支援拠点かなーちえ・西区地域子育て支援拠点スマイル・ポート「**ネパールママ子育て支援ワークショップ**」（外国人コミュニティとの連携、企画、WS実施）
- 横浜市中区こども家庭支援課「**中華文化圏出身者向け妊婦教室**」（内容検討、支援者研修、妊婦教室実施※）
- 小田原市子育て支援センター（ざんが邑）「**子育て支援センターを外国人住民に活用してもらうには**」（職員研修、内容検討、広報協力、WS実施※）

※新型コロナウイルスの拡大に伴い、中止となりました。

【申込・お問い合わせ】



公益財団法人 **かながわ国際交流財団**
Kanagawa International Foundation

外国人住民子育て支援事業担当

Email: tabunka@kifjp.org Tel: 045-620-4466

決定後のモデル事業の流れ

課題の洗い出し 地域課題をKIFと共有

例えば…

- ◆ 「地域に増えている外国人子育て世代に対応したいのだけど、どのようにコミュニケーションをとったらよいかわからない。」
- ◆ 「外国人子育て世代に情報がいきわたらないので、支援者との間で常に課題が生じている。」

調査

外国人当事者とコミュニケーションをとり、現状を知る

例えば…

- ◆ 外国人コミュニティとコミュニケーションをとり、来日背景や日本での妊娠・子育てについて困っていることなどを聞く。
- ◆ なぜその地域に住んでいるかなど知る。例えば、モスクなどの宗教施設や勤務先の近さなど。
- ◆ 他の支援者（例えば地域の国際交流をしている場所など）と情報交換する

支援者向け研修

外国人キーパーソンと一緒に支援者への研修を行う

例えば…

- ◆ 母国の妊娠・子育ての文化や習慣の紹介。
- ◆ 外国人住民たちは日本で何に困っているか。
- ◆ どんなサポートがあると助かるか。
- ◆ 多言語支援に役立つツールや社会サービスの紹介。など

内容検討

外国人住民向けにどんなことができるかを考える

例えば…

- ◆ 日本語ができないから母親学級に参加しておらず、そのため情報が得られず問題が生じていたので、母語でのクラスを開催することができないか？
- ◆ 多言語での案内がなかったなので、サービスを使ってもらえなかったが多言語での案内および、スタッフ研修で多言語サービスを使うことを学んだうえで外国人を受け入れる仕組みを作れないか？

企画実施

その地域にあった外国人住民向けの仕組みを実施

例えば…

- ◆ 実際に外国人住民を集めて仕組みを実施してみる。
【過去の事例】
- ・ ムスリム女性栄養・健康ワークショップ
- ・ ベトナム人妊婦教室
- ・ ネパールママ子育て支援ワークショップ
- ・ 外国人ママ向け防災ワークショップ
- ・ 中華文化圏出身者の妊婦教室

ゴール

KIFが事例集等にまとめ、今後日本の外国人住民支援に役立てる！